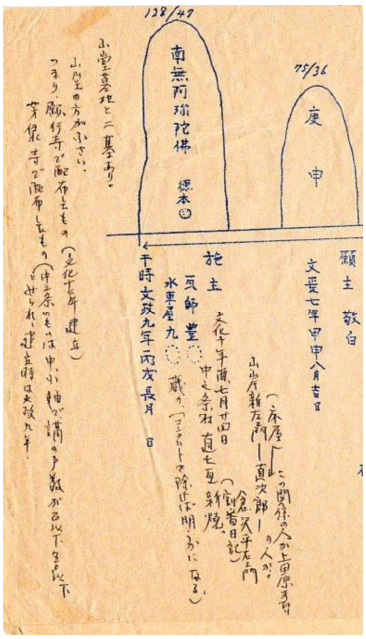
中之条にある、もう２基の徳本上人名号碑

１　はじめに

『諏訪形誌』や『諏訪形誌ｗｅｂ版』で取り上げているとおり、上田市内には「徳本上人の名号碑」が以下の６カ所に建立されていることは周知のとおりです。

・諏訪形の通称「カンカン石」	・願行寺（大門町）	・芳泉寺（常磐城）
・専念寺（下室賀）	・観音寺（上田原）	・常福寺（下之条）

諏訪形誌活用委員会顧問北沢伴康（元諏訪形誌刊行委員会委員長）の文献調査により、『中之条誌』に「中之条地区に徳本上人名号碑が存在する」という記載があることがわかりました。この記載についての調査を進める中で、中之条自治会長中澤伸夫さんと『中之条誌』執筆者（編集委員長）の中沢賢さんから、ご助言と資料提供をいただき、中之条地区には2基の「徳本上人名号碑」が存在することがわかりました。



中沢賢さんからは、故中沢恵太氏が亡くなられた後、ご遺族の同意を得て調べさせていただいたメモに、中之条にある「徳本上人の名号碑」について、以下のような記述があるという情報をお寄せいただきました。部分的に引用します。

> 南無阿弥陀仏の徳本上人の碑はこの姥懐のほかに山堂（大字中之条地籍の小字名）にもあったことがわかりました。山堂といえば墓地や葬儀関連の道具の建物、牛の爪切り施設など個人所有でない土地がありました。国道拡張の際にその地が一部移転整備されたので、現状は現地調査をしてみないと分かりません。
>
> 中沢恵太氏のメモを解釈すれば、中之条の徳本上人の２基の石碑は、願行寺と芳泉寺で配布したものである。念仏講の参加人数は、願行寺より芳泉寺の方が多いので、碑の大きさも姥懐の碑の方が大きいと恵太氏はメモしている。建立年は山堂の碑は文化１３年（１８１６）、姥懐の碑は文政９年（１８２６）である。

２　姥懐庚申坂の名号碑

注：「姥懐（うばふところ）」は中之条地区内の小字名

『中之条誌（中之条誌編集委員会２０１７（平成２９）年）刊』に、以下のような記述があります。３２０～３２４ページから部分的に引用します。

> 四　姥懐庚申坂の石碑群
>
> 旧古舟橋から旧町通り（東町、西町にはさまれた通り）を抜け、別所街道を進むと緩やかに曲がる姥懐の庚申坂に出る。その坂道の北側に３０度から６０度ほどの南向き斜面がある。その斜面に沿って２群の石碑が並んでいる。
>
> 平成２０年後半頃までは中之条自治会、中之条自治会長ＯＢ会が年末の草刈り、清掃などを行っていた。現在は西側の石碑群は雑草におおわれ、東側の石碑群は繁茂する竹に囲まれている。
>
> 本石碑群については昭和後期に中之条自治会による調査が行われ、その報告書が残っている。今回（平成２８（２０１６）年）の調査では石碑の文字等は経年変化判読が難しいので、当時の報告書を全面的に参考にした。

以上の記述に続いて「西側の各石碑」として、幅約１４ｍに９基の石碑と、「東側の各石碑」として、幅約４．５ｍに５基の石碑が、下図のように並んでいくことが紹介されています。

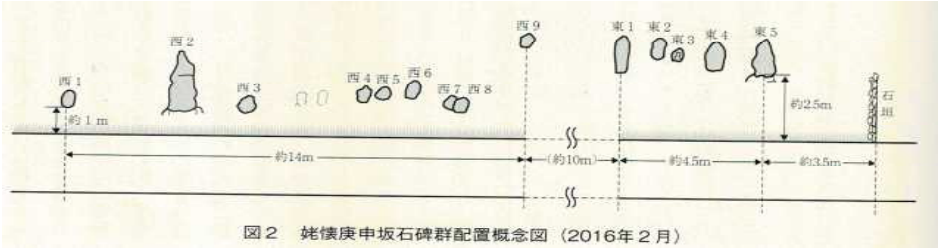


図２　姥懐庚申坂石碑群配置概念図（2016年２月）

『中之条誌』に掲載されている図版

また、『中之条誌』ではそれぞれの石碑について、以下のように記録されています。

西１：庚申塔
西２：壽水斎翁壽歳碑（１８７２（明治５）年）
西３：馬頭観世音（１８８３（明治１６）年）
西４：馬頭観世音
西５：馬頭観世音（１８８３（明治１６）年）
西６：道祖神（１９２７（昭和２）年、小坂井組のものを現在地に移転）
西７：馬頭観世音（１８７３（昭和６）年）
※西暦と和暦が違うので、どちらかが間違いと思われます。
年号から考えて、「明治６年」が正しいのではないかと推察できます。
西８：馬頭観世音（１８９１（明治２４）年）
西９：馬頭観世音

東１：南無阿弥陀仏（１８２６（文政９）年）
東２：庚申（１８２４（文政７）年）
東３：石像（天明■■）
※天明年間は１７８１年～１７８９年
東４：庚申（寛政庚申（１８００年））
東５：奉納大乗妙典本斎翁■■（１７８１（永安１０）年）

「姥懐の庚申坂」東側から見た　西側の石碑群

この「姥懐庚申坂」は、旧保福寺街道の入り口付近にあたります。保福寺街道は、旧東山道をなぞるかたちで上田城下から上田市浦野、青木村、保福寺峠を経て岡田宿（松本市）までの約３３ｋｍを結ぶ街道で、現在でもあちこちに石仏群や昔の街道筋を偲ばせる景観などが見られます。「姥懐庚申坂の石碑群」もそのような、人々の往来が盛んだった場所に、街道の目印として設置されたものではないか、と『中之条誌』を編纂された中沢さんは考えているとのことです。諏訪形の「カンカン石」も別所街道沿いと思われる場所に建立されていることとの共通点もありそうです。なお、このような石碑群は築地地区にも残っています。

「姥懐庚申坂」について、『もくず会報３１号（２０２０（令和２）年９月１０日刊）』には以下のように記述されています。

御所堤防と中之条堤防の境目辺りから川向こうに向けてかつて木製の旧古舟橋が架けられていた。その辺りは江戸時代目尻町と呼ばれ、それから宮川を越え南に向かう通りは東側が東町、西側が西町と称され、松本に通じる幹線道路松本街道（保福寺街道）として栄えた。

南に向かうその街道はじきに江戸時代の測量の起点である小字関石（現在の西沢誠さん宅附近）の三叉路を右折して西に向かう。これを曲がらず直進するのが北向観音堂道（別所街道）である。この道は上田原の段丘上へと緩く右旋回して登る。

その辺りは回り込んだ段丘の南向きの急な斜面で、北風を防ぎ冬でも暖かいので、老婆の懐のようだと親しまれ、一帯は姥懐と呼ばれ、この坂の道沿いに庚申等が並ぶので古くから庚申坂と呼ばれた。この道沿いの傾斜地には江戸時代から明治～昭和にかけて、各種の石碑石像が寄進建立され、今ではこの地の歴史を検証する、貴重な歴史遺産となっている。

８基あった馬頭観世音は農耕や運送に使ったウマの死を悼んで立てた供養碑である。

３基ある庚申塔は２２０年前の碑も現存、庶民の信仰を研究する貴重な資料である。

ひときわ大きい高さ２．１ｍの碑は、梅の水墨画の大家で文化人、中之条出身の西沢練齋翁の顕彰碑である。門弟達が明治５年（１８７２）に建立。当時の青年達が師を敬慕し建立した顕彰碑は近郷各地にあり当地方の教育文化史研究上重要な遺産である。
その他各種の碑を含めこの場所には２４０年前から昭和に至る１４基の石碑が保存されており、これだけの多数の古くからの石碑の集積は東信地区でも珍しいでしょう。

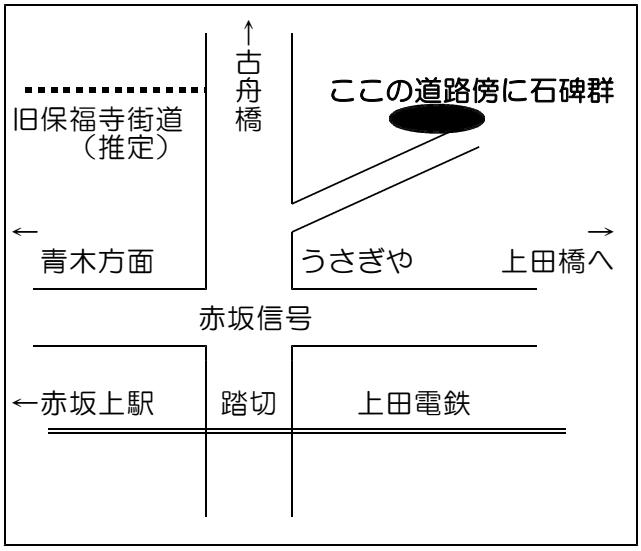
執筆・資料提供：中沢賢氏　『もくず会報』は中之条老人会機関紙

さて、ここで取り上げたいのは『中之条誌』に「東１　南無阿弥陀仏」として記録されている石碑についてです。『中之条誌』３２３ページの写真（昭和の後期に撮影されたとされるもの。右の図版は『中之条誌』より）では、文字などははっきりと読み取ることはできないものの、石碑の文字は徳本上人名号碑に共通する独特の書体で書かれていることがわかります。

東１　南無阿弥陀仏

碑文について『中之条誌』では「南無阿弥陀仏　徳本■　施主　瓦師豊■　水車屋九■　文政九年」である、と記載されています。また、故中沢恵太氏のメモには、この名号碑は「文政９年（１８２６年）に芳泉寺から配布されたもの」であると書かれています。

なお、諏訪形の「カンカン石」は１８１７（文化14）年の建立となっていますから、中之条の名号碑の建立は諏訪形のカンカン石建立の9年後ということになります。



「姥懐庚申坂の石碑群」は、赤坂の信号を北（古舟橋方面）にわずかに進んだところで右（東側）側のやや狭い下り坂（姥懐の庚申坂）を少し進んだ先の道路左（北）側です。『中之条誌』で「西２：壽水斎翁壽歳碑」と記載されている、比較的大きな石碑が目につきます。また、その周囲に『中之条誌』で「西１～西９」と示された庚申塔、馬頭観音、道祖神なども見られますが、現在は行方がわからなくなってしまっている石碑もいくつかあるようです。

右写真の２軒の建物の間の道をわずかばかり下っていくと、道路左（北）側にまず、大きな「壽水斎翁壽歳碑（『中之条誌』の資料で「西２」とされている石碑）」が目につきます（左下の写真参照）。よく見ると、この石碑の周辺には『中之条誌』で「西１」から「西９」とされている石碑が点在しているのですが、前述のとおり、現在では行方がわからなくなってしまっているものもあるようです。

左の写真で「壽水斎翁壽歳碑」の奥（東側）に見える竹藪の中に「東１」から「東５」の石碑があります。ただ、藪が深いので、知らなければ気がつかずに通り過ぎてしまうような場所です。

藪の東端には、比較的見えやすい場所に「東４：庚申」と「東5：奉納大乗妙典本斎翁■■」があり、その西側、少し離れた場所に「東１：南無阿弥陀仏（１８２６（文政９）年）」の石碑があります（右の写真参照）。

石碑表面に見られる「南無阿弥陀仏」の文字は徳本上人の名号碑に見られる、独特のものであることがわかります。また、碑面に彫られた建立の時期からも、「徳本上人の名号碑」と見てまちがいなさそうです。上田市内に「もう１基の名号碑」があることが確認されました。

なお、建立に関わったと思われる人の名前も刻まれていますが、どのような人だったのかについての記録は残っていないようです。

姥懐庚申坂の石碑群

【コラム】ウォルター・ウエストンと保福寺峠
「日本アルプス」を母国イギリスをはじめ世界中に広く紹介した（命名したのは別の人）ことで知られるウォルター・ウエストンは、初来日したとき（来日３年目）に上田からこの「保福寺街道」を通って松本市に入っています。この時、保福寺峠から見た北アルプスの姿に深く感銘を受けた、と自らの著書『日本アルプス　登山と探検』の中で語っています。現在、保福寺峠の南側に、ウエストンを記念するレリーフ（石碑）が建てられています。

３　山堂（やまんど）の名号碑

前に述べたとおり、中沢賢さんからお送りいただいた、故中沢恵太氏が残した資料では、姥懐の庚申坂以外にもう一基、「山堂（やまんど）」にも徳本上人の名号碑が残っているとされています。

山堂は中之条の小字で、中之条の信号（中之条公民館南西）周辺のようです。信号から県道７７号線を７０ｍほど西に進むと、左手（南側）に中之条の墓地があります。現地に建つ「山堂墓地の碑」には、「１９９２（平成４）年から１９９６（平成８）年にかけての県道長野上田線（県道77号線）の道路改良に伴って、この場所に移転した」と記されています。左の写真（中之条信号方面から撮影）で、手前に見えているのが「山堂墓地」です。

「山堂墓地」の北西に隣り合う場所に2基の石像・石碑が祀られています（右写真）。このうち、西（右）側の碑が「徳本上人名号碑」です。

故中沢恵太氏のメモによると、この名号碑は願行寺（上田市大門町）から「配布」されたもので、１８１６（文化１３）年の建立となっています。この年は「カンカン石」建立の前年にあたります。また、氏のメモにある「姥懐の名号碑よりも小さい」という記述とも一致します。

私が訪れた時にも、石碑にはお茶が供えられており、今も地域の皆さんによって大切に守られていると感じました。